

棟高北街道遺跡

－建売分譲住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

棟高北街道遺跡

2023

高崎市教育委員会
パリオ・サーヴェイ株式会社

2023

高崎市教育委員会
パリオ・サーヴェイ株式会社

棟高北街道遺跡

— 建売分譲住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2023

高崎市教育委員会
パリノ・サーヴェイ株式会社

例言

1. 本書は高崎市棟高町字北街道2004-1に所在する棟高北街道遺跡(高崎市遺跡調査番号852)の発掘調査報告書である。
2. 本調査は建売分譲住宅建設工事に伴い実施され、高崎市教育委員会の指導のもとバリノ・サーヴェイ株式会社が実施した。発掘調査および整理作業、報告書刊行に関わる費用は土地所有者である志村初雄氏にご負担いただいた。

3. 遺跡の所在地・調査面積・調査期間・整理期間は下記のとおりである。

所在地	高崎市棟高町字北街道 2004-1
調査面積	31 m ²
調査期間	令和4年8月18日～令和4年8月26日
整理期間	令和4年8月27日～令和5年3月31日

4. 本書の編集は高崎市教育委員会の指導および助言のもと、赤堀岳人(バリノ・サーヴェイ株式会社)が行った。執筆は第1章第1節を高崎市教育委員会文化財保護課が、そのほかは赤堀岳人が行った。
5. 本発掘調査に関わる出土遺物、実測図ならびに写真等記録類の全ては高崎市教育委員会が保管している。
6. 本書の著作権は高崎市教育委員会が保有している。
7. 発掘調査の実施から報告書刊行に至るまで、次の諸氏ならびに諸機関にご指導、ご協力いただいた。記して感謝の意を表したい。(敬称略、50音順)。

株式会社酒井建材、斎藤弘道、特別非営利活動法人井草文化財研究所、中島特太、一建設株式会社、宮下数史、
有限会社かほいち地所

凡例

1. 本書で使用した座標は世界測地系に則る。
2. 挿図中における方位(N)は座標北を示す。
3. 標高はT.P(Tokyo Peil)を基準とした値である。
4. 遺構および遺物実測図の縮尺は各図に示す。
5. 遺物写真の縮尺は遺物実測図の縮尺と同じである。
6. 本書に使用した地図は以下の通りである。国土地理院発行「前橋」・「下室田」電子地形図25000分の1、高崎市発行「高崎市都市計画基本図」5000分の1。
7. 土層注記および土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修「新版 標準土色帖」(1998年版)を使用した。
8. 主な火山灰降下物等の略称と年代は次の通りである。
浅間B軽石(As-B) ……嘉承3・天仁元年(1108)浅間山噴火による降下テフラ。

目次

例言
凡例
目次

第1章 遺跡の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 地理的環境と周辺の遺跡	2
1. 周辺の地理的環境	2
2. 周辺の遺跡	2
第3節 調査の経過	4
第4節 基本層序	4
第2章 縄文時代の遺構と遺物	6
1. 住居跡	6
2. ビット	8
3. 遺構外出土遺物	10
第3章 その他の時代の遺構と遺物	12
1. ビット	12
2. 出土遺物	14
第4章 まとめ	15
1. 縄文時代	15
2. その他の時代	15

引用・参考文献
写真図版

挿図目次

図1. 調査地点の位置	1
図2. 周辺の遺跡	3
図3. 基本層序	5
図4. 縄文時代遺構配置図	6
図5. 1号住居跡実測図	7
図6. 1号住居跡出土遺物	8
図7. 縄文時代ビット実測図	9
図8. 縄文時代ビットおよび遺構外出土遺物実測図	10
図9. その他の時代遺構配置図	12
図10. その他の時代ビット実測図	13
図11. その他の時代出土遺物実測図	14

表目次

表1. 1号住居跡ビット一覧	8
表2. 1号住居跡出土遺物観察表	8
表3. 縄文時代ビット一覧	10
表4. 縄文時代ビット出土遺物観察表	11
表5. 縄文時代遺構外出土遺物観察表	11
表6. その他の時代ビット一覧	14
表7. その他の時代出土遺物観察表	14

写真図版目次

図版1

調査区完掘状況（南東から）

1号トレンチ壁面（西から）

図版2

1号住居跡完掘状況（東から）

1号住居跡埋甕（P26）出土状況（西から）

図版3

1号住居跡ビット

縄文時代ビット

1号住居跡出土遺物

ビット15出土縄文土器

遺構外出土縄文土器

図版4

その他の時代ビット

その他の時代出土遺物

第1章 遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯

令和4年4月に土地所有者と開発業者より、高崎市榎高町において計画している建売分譲住宅建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が高崎市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である奈良平№43遺跡（遺跡番号01930）の範囲内に所在するため、工事に際して協議が必要である旨を回答した。同年4月19日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年6月2日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、縄文時代中期の埋甕を確認した。この結果をもとに開発業者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「榎高北街道遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、令和4年7月14日に、開発業者と民間調査機関バリノ・サーヴェイ株式会社との間で契約を締結し、同日に開発業者、バリノ・サーヴェイ株式会社、市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

榎高北街道遺跡の埋蔵文化財発掘調査及び報告書作成に係る費用については、土地所有者である志村初雄氏とバリノ・サーヴェイ株式会社が発掘調査委託契約を令和4年7月15日に締結した。契約期間は令和4年8月18日から令和5年3月31日とし、発掘調査は令和4年8月18日より開始した。

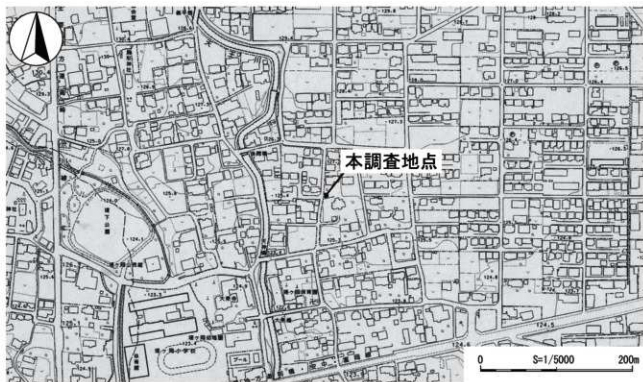


図1. 調査地点の位置

第2節 地理的環境と周辺の遺跡

1. 周辺の地理的環境

高崎市北部に所在する本調査地点は、榛名山の南東麓に広がる相馬ヶ原扇状地の扇端付近に位置する。相馬ヶ原扇状地は、新期榛名山火山扇状地堆積物により構成されており、同堆積物中には2.0万～1.5万年前の相馬山の山体崩壊により発生した陣場岩層なだれ堆積物が挟在する（下司・竹内, 2012）。また、新期榛名山火山扇状地堆積物の最上位には、榛名二ツ岳沢川テフラや榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FA・Hr-FP; 早田, 1989; 町田・新井, 2003）の火砕流堆積物やそれらのテフラに由来する洪水堆積物が認められていることから、扇状地の形成は6世紀ごろまで継続していたことになる（下司・竹内, 2012）。

相馬ヶ原扇状地は、多くの小河川により浸食されており、谷や自然堤防等の地形が分布する。本調査地点は天王川左岸の自然堤防状の微高地に位置し、その標高はT.P. 120m程度を測る。

2. 周辺の遺跡

ここでは、縄文時代以降の各時代について、本調査地点周辺の遺跡を図2に示し、概要を述べる。

(1) 縄文時代

縄文時代前期では上野国分僧寺・国分尼寺中間地域遺跡（71）において前期後半の住居跡が確認されている。

中期では、上野国分僧寺・国分尼寺中間地域遺跡（71）、三ツ寺Ⅱ遺跡（41）、保渡田Ⅶ遺跡（25）等で住居跡が確認されているほか、棟高地域では、棟高遺跡群（10）の棟高東新堀1遺跡において加曽利E4式の敷石住居が、棟高辻の内遺跡では中期の埋壘が確認されている。また、本調査地点から天王川を挟み対岸に位置する棟高西弥三郎街道遺跡（1）では加曽利E3式期の住居跡2軒が確認されている。

後晩期の遺跡は少ない。後期では、図2の範囲外ではあるが、小八木志志貝戸遺跡で柄鏡形住居跡が確認されている。晩期では鳥羽遺跡（70）で晩期の可能性がある遺構が、北谷遺跡（58）で晩期に帰属する遺物が出土している。

(2) 弥生時代

中期後半の集落跡として、上野国分僧寺・国分尼寺中間地域遺跡（71）等が確認されている。

後期後半では、井出村東遺跡（39）、西三社免遺跡（12）、正観寺遺跡群（54）、三ツ寺Ⅱ遺跡（41）等で集落の痕跡が確認されている。

(3) 古墳時代

古墳時代前期では上野国分僧寺・国分尼寺中間地域遺跡（71）等において、古墳時代中期では図2の範囲外ではあるが小八木志志貝戸遺跡、西浦北遺跡において集落の痕跡が確認されている。

後期になると遺跡数が多くなり、上野国分僧寺・国分尼寺中間地域遺跡（71）、鳥羽遺跡（70）、西国分遺跡群（60）、小池遺跡（55）、諏訪西遺跡（56）、西三社免遺跡（12）、保渡田遺跡（43）、冷水村東遺跡（57）等で集落跡が確認されている。棟高地区においても棟高南八幡街道遺跡2（3）、棟高西弥三郎街道遺跡（1）、棟高辻久保遺跡（11）等で集落の痕跡が確認されている。

集落以外では、豪族居館跡が三ツ寺Ⅰ遺跡（40）、北谷遺跡（58）で確認されている。

後期の古墳としては、前方後円墳である保渡田二子山古墳（22）、保渡田八幡塚古墳（23）、保渡田薬師塚古墳（24）を含む保渡田古墳群があり、終末期古墳群としては毘沙門古墳（20）、寺屋敷・蓋・鶴巻古墳群（18）、北寝暮窪古墳群（15）等がある。

生産遺跡としては同道遺跡（45）、菅谷石塚Ⅱ遺跡（51）、井出地区遺跡群（44）等で榛名二ツ岳沢川テフラ（Hr-FA）下の水田址が、棟高遺跡群（10）の棟高東新堀1遺跡、棟高南寝暮窪3・4遺跡、棟高辻の内Ⅳ遺跡、棟高水窪3・4遺跡等で耕作の痕跡が確認されている。

(4) 古代

古代になると、本調査地点より東に3km程度の地点に上野国府が設置され、それに付属する上野国分僧寺・国分尼寺が置かれた。本調査地点周辺でも多くの集落跡が確認されている。

奈良時代の集落跡としては、棟高南八幡街道遺跡1、2、3（2～4）、棟高村北遺跡（5）、棟高西新堀遺跡（6）および棟高遺跡群（10）の棟高東新堀1遺跡と棟高水窪遺跡、西三社免遺跡（12）、小池遺跡（55）、諏訪西遺跡（56）が確

認されている。

平安時代の集落跡としては、棟高遺跡群(10)の棟高辻の内遺跡、棟高南寝暮窪遺跡、棟高水窪遺跡、棟高辻久保遺跡や、棟高南八幡街道遺跡1、2、3(2~4)、棟高西弥三郎街道遺跡(1)が確認されている。

また、9世紀後半以降には本調査地点より南に1.5km程の位置に東山道が開通し、高貝戸遺跡(50)、正観寺遺跡群(54)においてその痕跡が確認される。

(5) 中世

本調査地点周辺では、図2の範囲外であるが寺ノ内館が室町時代長野氏武士団の居館と考えられており、本郭に伴う堀跡、掘立柱建物跡、柵列、土坑、井戸等が確認されている。



1. 棟高西弥三郎街道遺跡、2. 棟高南八幡街道遺跡、3. 棟高南八幡街道遺跡2、4. 棟高南八幡街道遺跡3、5. 棟高北北遺跡、6. 棟高西新堀遺跡、7. 棟高平石遺跡、8. 棟高東弥三郎街道遺跡、9. 棟高西石田遺跡、10. 棟高遺跡群、11. 棟高辻久保遺跡、12. 西三社免遺跡、13. 菅谷石塚遺跡、14. 観音寺古墳、15. 北寝暮窪古墳群、16. 東久保古墳群、17. 東原古墳群、18. 寺屋敷・差・鶴巻古墳群、19. 染師様古墳、20. 毘沙門古墳、21. 屋敷古墳群、22. 保渡田二子山古墳、23. 保渡田八幡塚古墳、24. 保渡田薬師塚古墳、25. 保渡田V遺跡、26. 井出北畑遺跡、27. 賢海防古墳、28. 御庫山古墳、29. 上効村8号古墳、30. 菅谷古墳群、31. 堤上遺跡、32. 中林遺跡、33. 三ツ寺大下遺跡群、34. 権現原遺跡、35. 中泉稲荷前遺跡、36. 三ツ寺七志遺跡、37. 中泉十王堂遺跡、38. 三ツ寺村前道下遺跡、39. 井出村東遺跡、40. 三ツ寺I遺跡、41. 三ツ寺II遺跡、42. 三ツ寺III遺跡、43. 保渡田遺跡、44. 井出地区遺跡群、45. 同道遺跡、46. 保渡田東遺跡、47. 保渡田徳昌寺前遺跡、48. 菅谷遺跡群、49. 菅谷遺跡、50. 高貝戸遺跡、51. 菅谷石塚II遺跡、52. 菅谷村東遺跡、53. 菅谷万年貝戸遺跡、54. 正観寺遺跡群、55. 小池遺跡、56. 園訪西遺跡、57. 冷水村東遺跡、58. 北谷遺跡、59. 後定間遺跡群、60. 西園分遺跡群、61. 上野園分僧寺、62. 引間六石遺跡、63. 引間松葉遺跡、64. 塚田の場遺跡、65. 塚田中原遺跡、66. 元総社西川遺跡、67. 元総社西川遺跡、68. 国府南部遺跡群、69. 稻荷台・北金尾遺跡、70. 鳥羽遺跡、71. 上野園分僧寺・園分尼寺中間地域

図2. 周辺の遺跡

棟高地区における調査では、棟高南八幡街道遺跡2(3)で室町時代と考えられる掘立柱建物跡、竪穴状遺構が、棟高南八幡街道遺跡3(4)で中世の溝、井戸が確認されている。

(6) 近世

本調査地点から天王川を挟み対岸に位置する棟高西弥三郎街道遺跡(1)では、近世に帰属すると考えられるムロ3基、井戸3基、溝1条が確認されている。特に1号ムロからはAs-A 下位よりまとまった陶磁器類が出土しており、貴重な資料と言える。

また、本調査地点より西に1.2 km程の地点には太平洋戦争末期に前橋飛行場が建設され、その付属施設である格納庫、掩体壕等が棟高辻久保遺跡(11)で調査されている。

第3節 調査の経過

現地調査は2022年8月18日～8月26日に実施した。以下に調査の経過を記す。

8月18日に現地調査を開始し、重機および資機材を搬入しオレンジネットの設置等の養生を実施した。また、基準点移動および調査区設定を行い、調査区設定状況を記録した後に重機による表土掘削を実施した。

8月19日は重機による表土掘削を継続した。同時に遺構精査を行い、基本層序Ⅲ・Ⅳ層を遺構確認面とするビット33基を確認し、遺構確認状況を記録した。

8月20日～24日にかけて検出されたビットの調査を実施した。ビットは半裁し、覆土の観察・記録を実施した後、覆土断面を手作業による実測図作成および写真撮影による記録を行った。完掘が終了したビットより写真撮影、トータルステーションによる測量を実施した。全ての遺構調査を8月24日までに終了し、同日、調査区全体の遺構完掘写真を撮影した。

8月25日には基本層序確認のための深堀(1号トレンチ)を設定し、人力で掘削した。1号トレンチを含む調査区壁面(東壁、北壁)について実測図を作成し、堆積物の観察・記録を実施した。合わせて、調査区平面図をトータルステーションによる測量を用いて作成した。

8月26日には、市教委担当者による終了確認を受けた後に重機による埋め戻しを実施した。合わせてオレンジネットの撤去等、現場資材の片付けを行った。埋め戻しが終了した後に、重機の搬出および資機材の搬出を行い、現地調査の全工程を終了した。

整理・報告書作成作業は、令和4年8月27日から令和5年3月31日の期間で実施し、令和5年3月31日に報告書を刊行した。

第4節 基本層序

本調査地点では基本層序としてⅠ～Ⅴ層を設定した。基本層序の観察・記録は調査区壁面で実施し、Ⅳ層以下については1号トレンチを設定・掘削し確認した。図3に基本層序実測図を示し、以下に各層の概要を述べる。

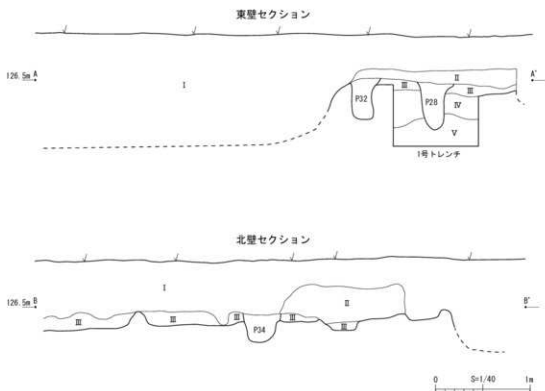
Ⅰ層は黒褐色砂質シルトを基質とする現代の攪乱層である。調査区全面で確認され、下位のⅡ層、Ⅲ層を削刺する。コンクリートブロックやビニールシート、礫を含む。層厚は40～60 cm程度を測るが、調査区東壁沿いでは深く、深度120 cm以上を測る。下層であるⅡ層、Ⅲ層とは不整合である。

Ⅱ層は黒色砂質シルトを基質とする旧耕作土である。AD1108年降灰の浅間B軽石(As-B)が混在する他、地山層であるⅣ層がブロック状に混在する。大半がⅠ層により削平される。層厚は10～40 cm程度を測る。下層であるⅢ層とは不整合である。

Ⅲ層は暗褐色砂質シルトを基質とするⅣ層への漸移層である。本調査地点の遺構確認は本層の上部で実施したが、Ⅰ層によりⅢ層が完全に削刺されている範囲ではⅣ層を遺構確認面とした。層厚は15～20 cm程度を測る。下層であるⅣ層とは漸移する。

Ⅳ層は黄褐色砂質シルトを基質とする。1号トレンチで確認し、層厚は最大40 cm程度を測る。下層であるⅤ層とは漸移する。

Ⅴ層はにぶい黄褐色砂を基質とし、小礫が混在する。1号トレンチで確認したが、下端は未確認である。層厚は最大35 cm程度を測る。



基本層序土層説明

- I層** 黄褐色砂質シルト (10YR2/2) を基質とし、締まりやや弱く、粘性無し。コシクリートブロック、締り多量含む。最下部は硬が冪中する層層が、その上は地山 (IV層) 土を基質とする層層が確認される。現代の埋乱層と考えられる。
- II層** 紫色砂質シルト (10YR2/1) を基質とし、締まり強く、粘性無し。Aa-B が混在し、IV層の黄褐色シルトブロック (径3~5mm) を微量含む。旧耕作土と考えられる。
- III層** 暗褐色砂質シルト (10YR3/4) を基質とし、締まりやや強く、粘性無し。IV層への漸移層である。
- IV層** 黄褐色砂質シルト (10YR6/6) を基質とし、しまり強く、粘性無し。
- V層** に近い黄褐色砂 (10YR4/2) を基質とし、締まり強く、粘性無し。硬 (径5mm以下) を少量含む。本調査地点で確認した最下層である。

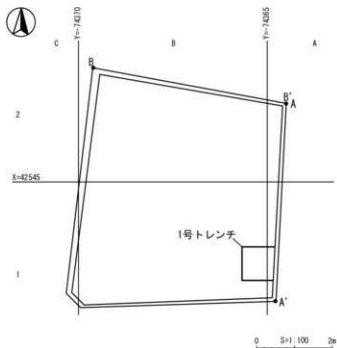


図3. 基本層序

第2章 縄文時代の遺構と遺物

本調査では縄文時代の遺構として住居跡1軒（1号住居跡）、ピット11基を検出した（図4）。遺物では中期後葉を主体とし、後期前半のものを若干含む縄文土器18点が出土した。以下に、住居跡、ピット、遺構外遺物について詳細を述べる。

1. 住居跡（図5、表1）

1号住居跡は調査区北側で検出した。北側の一部が調査区外に及ぶ。確認調査において埋塞が確認されたP26を起点として精査した結果、P26、P22、P2、P1、P23、P33、P34の7基のピットが住居跡に伴うものと想定された。住居幅方は視乱（1層）により失われており、焼土や硬化した地山等の炉跡痕跡も確認できない。

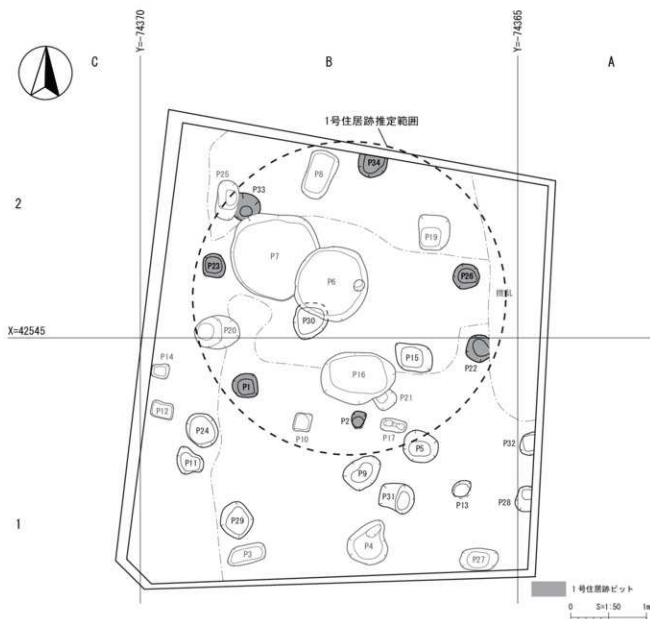
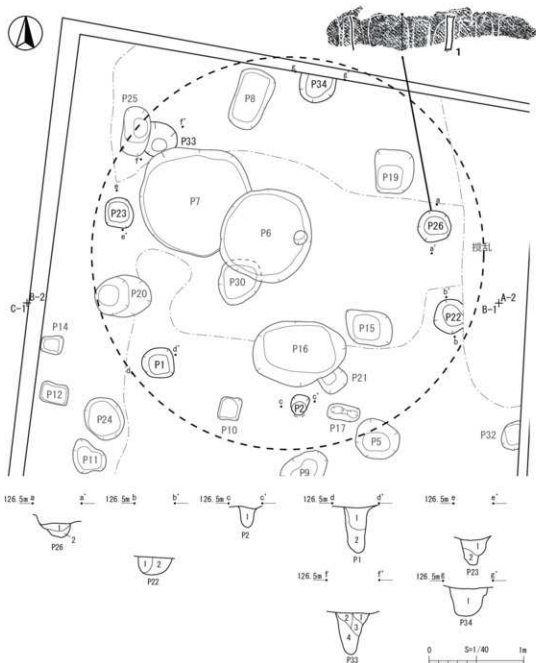


図4 縄文時代遺構配置図



P26 土層説明

- 1層：暗褐色シルト(10YR3/3)を基質とし、締まり弱く、粘性無し、IV層ブロックが少量混在する。
- 2層：1層に似るが、IV層ブロックを多量含む。

P22 土層説明

- 1層：にぶい黄褐色シルト(10YR3/3)を基質とし、締まり弱く、粘性無し、暗褐色土ブロック(径5mm)を微量、黄色土粒を微量含む。
- 2層：にぶい黄褐色シルト(10YR3/3)を基質とし、締まり弱く、粘性無し、赤色スコリアを微量、黄色土粒を微量含む。

P2 土層説明

- 1層：暗褐色シルト(10YR3/3)を基質とし、締まり弱く、粘性無し、IV層ブロック(径5mm)を少量、IV層土粒を少量含む。

P1 土層説明

- 1層：暗褐色シルト(10YR3/3)を基質とし、締まり弱く、粘性無し、IV層ブロック(径5mm)を少量、IV層土粒を少量含む。
- 2層：1層に似るが、より空隙多く、締まり弱い、またIV層の混入は微量である。

P23 土層説明

- 1層：暗褐色シルト(10YR3/3)を基質とし、締まり弱く、粘性無し、黄褐色土ブロック(径5mm)を微量、黄褐色土粒を微量含む。
- 2層：黄褐色シルト(10YR3/3)を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、含有物無し。

P33 土層説明

- 1層：暗褐色シルト(10YR3/3)を基質とし、締まり弱く、粘性無し、IV層土が固状に少量混在し、黄褐色土粒を少量含む。
- 2層：1層に似るがやや弱い。
- 3層：2層とほぼ同じで、赤色スコリアを微量、炭化物(径5mm)を微量含む。
- 4層：暗褐色シルト(10YR3/3)を基質とし、締まり弱く、粘性無し、IV層土が多量に混在する。

P4 土層説明

- 1層：にぶい黄褐色シルト(10YR3/3)を基質とし、締まり弱く、粘性無し、暗褐色土ブロック(径5mm)を微量、黄色土粒を微量含む。

図 5.1 号住居跡実測図

検出されたピットから住居跡平面は円形を呈すと考えられ、規模は直径 400 cm 程度と推定される。ピットは円形に配列し、ピット間の距離は広いところで 160 cm 程度、狭いところで 60 cm を測る。炉跡や壁溝および床面と推定されるものは確認されない。上述したように攪乱（I 層）により失われたと考えられる。

ピットは円形を呈するものが多く、規模は長径で 20 ～ 40 cm の範囲に収まる。深さは確認面の標高によりまちまちであるが、最大で P1 の 49 cm、最小で P26 の 15 cm である。P26 からは加曾利 E2 式と考えられる深鉢の埋裏が、P2 からは加曾利 E2 式の破片 1 点、P34 からは大木 8b 式の破片 1 点が出土した。

1 号住居跡のピットから出土した遺物は上述した縄文土器 3 点である。これらについて図 6、表 2 に示し、以下に詳細を述べる。

1 は P26 で確認された埋裏であり、加曾利 E2 式と考えられる深鉢の胴部である。地文は縄文 RL を縦位に施し、その上から沈線により逆 U 字状の単位文および渦巻文が施文される。

2 は P2 から出土した加曾利 E2 式と考えられる深鉢の胴部破片である。横方向の隆帯を施し、背に横方向の沈線を施文する。隆帯下位には斜行する沈線が施文される。

3 は P34 から出土した大木 8b 式と考えられる深鉢の胴部破片である。地文として RL 縄文を横位に施した後に、斜、縦、横方向および曲線の沈線が施文される。

本住居跡は、埋裏として用いられた深鉢より、加曾利 E2 式の時期に帰属すると考えられる。

2. ピット

本調査では縄文時代に帰属すると考えられるピット 11 基が検出された。ピットからは遺物はほとんど出土しないが、覆土の様相から縄文時代と推定したものである。図 7 に実測図を、表 3 にピットの詳細を示し、以下に概要を述べる。

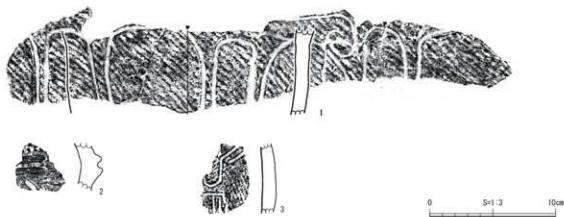
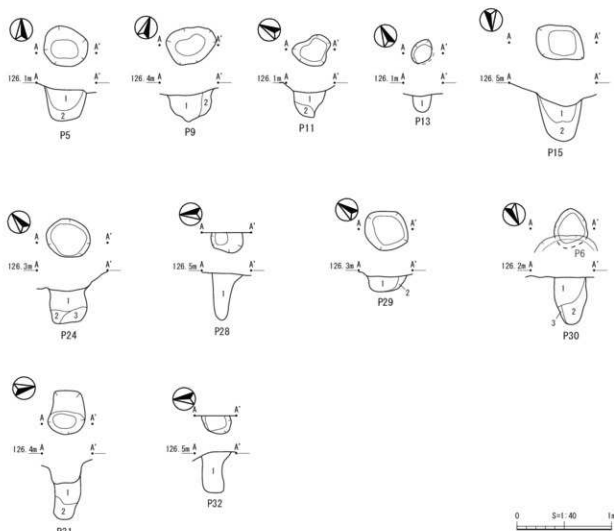


図 6. 1 号住居跡出土遺物

表 2. 1 号住居跡出土遺物観察表

図No.	出土遺構	型式	器種	部位	胎土色調	含有物	重量 (g)	文様等	備考
図 6-1	P26 (1 号住居跡)	加曾利 E2	深鉢	胴部	赤褐色	霏母：少 石英：微 小礫：微 白色粒子：微	460.4	縄文 RL、沈線	P26 埋裏
図 6-2	P2 (1 号住居跡)	加曾利 E2	深鉢	胴部	赤褐色	霏母：微 小礫：微 白色粒子：微	33.4	隆帯、沈線、斜文	
図 6-3	P34 (1 号住居跡)	大木 8b	深鉢	胴部	暗褐色	小礫：微 白色粒子：微	31.0	縄文 RL、沈線	



縄文時代ピット土層説明

P5

- 1層：灰黄褐色シルト (10YR4/2) を基質とし、締まりやや強く、粘性無し。黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を少量、赤色スコリアを微量含む。
2層：灰黄褐色シルト (10YR4/2) を基質とし、締まりやや強く、粘性無し。黄褐色土粒を少量、赤色スコリアを微量含む。

P9

- 1層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まりやや強く、粘性無し。IV層ブロック (径50mm) を少量含む。
2層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり弱く、粘性無し。IV層ブロック (径50mm) を少量、IV層土粒を少量含む。

P11

- 1層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり強く、粘性無し。黄褐色土粒を微量含む。
2層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり強く、粘性無し。黄褐色土粒を少量含む。

P13

- 1層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り。黄褐色土粒を微量含む。

P15

- 1層：にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) を基質とし、締まり強く、粘性無し。黄褐色土ブロック (径5～10mm) を少量、黄褐色土粒を微量、炭化材を微量含む。
2層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり強く、粘性無し。黄褐色土粒を微量含む。

P24

- 1層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり強く、粘性無し。黄褐色土粒を微量含む。
2層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり強く、粘性無し。黄褐色土粒を微量含む。IV層土が少量混在する。
3層：にぶい黄褐色砂質シルト (10YR4/3) を基質とし、締まり強く、粘性無し。

P28

- 1層：にぶい黄褐色砂質シルト (10YR5/3) を基質とし、締まり弱く、粘性無し。暗褐色土ブロック (径5～10mm) を微量、黄褐色土粒を微量含む。

P29

- 1層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり強く、粘性無し。赤色スコリアを少量含む。

P30

- 1層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり強く、粘性やや有り。塊土粒を微量、炭化材 (径5mm) を微量、IV層ブロック (径5～10mm) を多量含む。
2層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり強く、粘性やや有り。塊土粒を微量、炭化材 (径5mm) を微量含む。
3層：褐色砂質シルト (10YR4/1) を基質とし、締まり弱く、粘性無し。黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量含む。

P31

- 1層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり弱く、粘性無し。IV層土ブロック (径5mm) を少量、IV層土粒を少量含む。

P32

- 1層：暗褐色シルト (10YR3/3) を基質とし、締まり弱く、粘性無し。IV層土ブロック (径5mm) を微量、IV層土粒を微量含む。

P32

- 1層：にぶい黄褐色砂質シルト (10YR5/3) を基質とし、締まり弱く、粘性無し。暗褐色土ブロック (径5～10mm) を微量、黄褐色土粒を微量含む。

図7. 縄文時代ピット実測図

ビットは中央から南側で検出されたものが多く、各ビット間に有意な配列は確認できない。平面形は円形もしくは楕円形を呈し、規模は長径で最小が28cm (P13)、最大が52cm (P9)を測る。深さは確認面の標高によりまちまちであるが、最大でP28、30の50cm、最小でP29の15cmである。覆土は暗褐色シルトを主体とするものが多く、下部は黄褐色シルト、灰黄褐色シルトが堆積する傾向が窺える。このことから、上部から黄褐色、灰黄褐色の覆土があるビット(P5、15、28、32)については攪乱により上部が削平されている可能性がある。遺物はほとんど出土していないが、P15からは縄文時代中期中葉から後葉と考えられる小破片1点(図8-1)が出土した。深鉢の胴部破片であり、逆U字状の沈線区画および不明瞭な縄文が施文される。

表3. 縄文時代ビット一覧

遺構名	検出位置	平面形状	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	備考
P5	B-1	円形	47	42	32		
P9	B-1	楕円形	52	39	27		
P11	B-1	不整形円形	42	33	36		
P13	B-1	楕円形	28	22	17		
P15	B-1	不整形楕円形	49	38	37	中期中葉～ 後葉1点	
P24	B-1	円形	40	41	35		
P28	A-1B-1	-	33	-	50		
P29	B-1	円形	31	44	15		
P30	B-1B-2	楕円形	36	-	50		P8に切られる
P31	B-1	不整形円形	46	38	40		
P32	A-1	-	32	-	44		

これらのビットについて覆土の様相から縄文時代と推定したが、P15以外は遺物が出土していないため、各ビットの詳細な帰属時期は不明である。P15については中期中葉～後葉に帰属する可能性が高い。

3. 遺構外出土遺物

ここでは攪乱層(1層)や試掘で出土した縄文土器について帰属時期が推定できる5点を図示し(図8-2～6)、以下に詳細を述べる。

2は攪乱層(1層)から出土した加曾利E2式と考えられる深鉢の胴部破片である。隆帯2本が横方向に施文され、下位のはやや湾曲する。隆帯の境界に沈線が施文される。

3は攪乱層(1層)から出土した加曾利E2式と考えられる深鉢の胴部破片である。地文には縄文RLが縦位に施される。縦方向の隆帯を施し、その際に沈線が施文される。

4は攪乱層(1層)から出土した加曾利E4式と考えられる深鉢の胴部破片である。縦方向の微隆帯および縄文が施文される。

5は試掘トレンチ(T1)から出土した中期中葉～後葉に帰属すると考えられる深鉢の胴部破片である。無筋縄文Lが縦位に施文される。

6は試掘トレンチ(T2)から出土した堀之内2式と考えられる深鉢の胴部破片である。斜、横位に施文された縄文LRを地文とし、平行する2条の沈線区画内を擦り消す。



ビット15出土縄文土器



遺構外出土縄文土器



図8. 縄文時代ビットおよび遺構外出土遺物実測図

表 4. 縄文時代ピット出土遺物観察表

図№	出土遺構	型式	器種	部位	胎土色調	含有物	重量 (g)	文様等	備考
図 8-1	P15	中期中葉 ～後葉	深鉢	胴部	灰褐色	霏母：微 小礫：微	22.9	沈線、縄文	

表 5. 縄文時代遺構外出土遺物観察表

図№	出土遺構	型式	器種	部位	胎土色調	含有物	重量 (g)	文様等	備考
図 8-2	埋込層 (1層)	加曽利 E2	深鉢	胴部	赤褐色	霏母：微 小礫：少	32.8	隆帯、沈線	
図 8-3	埋込層 (1層)	加曽利 E2	深鉢	胴部	赤褐色	霏母：少 小礫：少 白色粒子：少	23.7	隆帯、沈線、縄文 L	
図 8-4	埋込層 (1層)	加曽利 E4	深鉢	胴部	赤褐色	霏母：中 小礫：少 白色粒子：微	21.2	隆帯、縄文	
図 8-5	試験トレンチ (T1)	中期中葉 ～後葉	深鉢	胴部	灰色	霏母：微 石英：微 白色粒子：少 小礫：微	36.0	縄文 L	
図 8-6	試験トレンチ (T2)	期之内 2 式	深鉢	胴部	赤褐色	石英：微 小礫：中 白色粒子：少	30.1	沈線、縄文 Lf	

第3章 その他の時代の遺構と遺物

縄文時代以外に帰属する遺構としてピット 15 基が確認された（図9）。ピットからは遺物がほとんど出土していないため詳細な帰属時期は不明であるが、覆土の様相から縄文時代には帰属しないと判断した。そのほか、攪乱層を中心に土師器・須恵器が 23 点、近世以降の陶磁器類および土器類が 25 点出土している。以下にピットおよび出土した遺物について詳細を述べる。

1. ピット

ピットは 15 基が確認され、平面的な配置に特に偏りは確認されない。ピットからは遺物はほとんど出土しないが、覆土の様相から縄文時代以外に帰属すると推定したものである。図 10 に実測図を、表 6 にピットの詳細を示し、以下に概要を述べる。

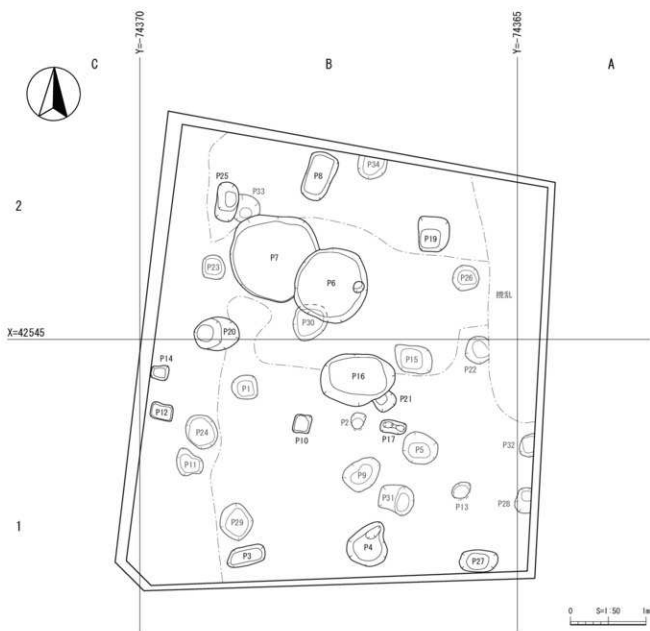
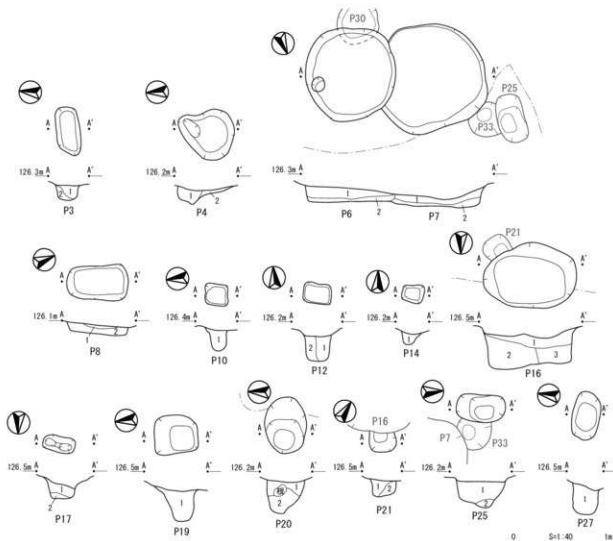


図9. その他の時代遺構配置図



その他の時代ピット土層説明

- P3**
 1層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まりやや強く、粘性やや有り、IV層土が現状に少量混在し、As-B混土层 (II層) を少量、黄褐色土粒を微量含む。
 2層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まりやや強く、粘性やや有り、IV層土が現状に少量混在し、黄褐色土粒を微量含む。
- P4**
 1層 に近い黄褐色粘土質シルト (10YR2/3) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量含む。
 2層 に近い黄褐色シルト (10YR2/4) を基質とし、締まり弱く、粘性無し、As-B混土ブロック (II層) を少量含む。
- P6**
 1層 灰黄褐色シルト (10YR4/2) を基質とし、締まり弱く、粘性無し、As-B混土ブロック (II層) (径5mm) を少量、黄褐色土ブロック (径5mm) を多量、黄褐色土粒を少量、礫 (径5mm) を微量含む。
 2層 暗褐色粘土質シルト (10YR2/3) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、黄褐色土粒を微量含む。
- P7**
 1層 暗褐色シルト (10YR2/3) を基質とし、締まり弱く、粘性無し、黄褐色土ブロック (径50~100mm) を少量、黄褐色土粒を少量、炭化物を微量、礫 (径5mm) を微量含む。
 2層 黄褐色シルト (10YR2/3) を基質とし、締まり弱く、粘性有り。
- P8**
 1層 灰黄褐色シルト (10YR4/3) を基質とし、締まり弱く、粘性無し、As-B混土ブロック (II層) (径5mm) を微量、黄褐色土ブロック (径5~10mm) を多量含む。
 2層 暗褐色粘土質シルト (10YR2/4) を基質とし、締まり強く、粘性無し、IV層土が主体でありAs-B混土 (II層) が現状に混入する。
- P10**
 1層 暗褐色シルト (10YR2/3) を基質とし、締まり弱く、粘性無し、IV層土を少量、IV層土を少量含む。
- P12**
 1層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、As-B混土層 (II層) を少量、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量含む。
 2層 黄褐色シルト (10YR2/3) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、黄褐色土ブロック (径5mm) を少量、黄褐色土粒を少量含む。
- P14**
 1層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、As-B混土層 (II層) を少量、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量含む。
- P16**
 1層 暗褐色シルト (10YR2/3) を基質とし、締まり強く、粘性無し、As-B混土層 (II層) を微量、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量、炭土粒を少量含む。
 2層 灰黄褐色粘土質シルト (10YR2/3) を基質とし、締まり強く、粘性無し、IV層土を基質とし、II層土が混在する。
 3層 灰黄褐色粘土質シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり強く、粘性無し、IV層土を基質とし、暗褐色土が混在する。
- P17**
 1層 暗褐色シルト (10YR2/3) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量、As-B混土層 (II層) を微量含む。
 2層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り。
- P19**
 1層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、As-B混土層 (II層) を少量、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量含む。
 2層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量、As-B混土層 (II層) を微量含む。
 3層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り。
- P20**
 1層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量、As-B混土層 (II層) を微量含む。
 2層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り。
 3層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り。
- P21**
 1層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量、As-B混土層 (II層) を微量含む。
 2層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り。
 3層 黄褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り。
- P25**
 1層 暗褐色粘土質シルト (10YR2/3) を基質とし、締まり弱く、粘性無し、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量、炭土粒を微量、炭化物を微量含む。
 2層 に近い黄褐色シルト (10YR4/3) を基質とし、締まりやや強く、粘性やや有り、黄褐色土が現状に混在する。
- P27**
 1層 暗褐色シルト (10YR2/2) を基質とし、締まり弱く、粘性やや有り、黄褐色土ブロック (径5mm) を微量、黄褐色土粒を微量、As-B混土層 (II層) を微量含む。

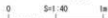


図 10. その他の時代ピット実測図

平面的に特に偏りなく検出されており、各ピット間に有意な配列は確認できない。平面形は大きく分けて、大形のもの（P6、7、16）、円形もしくは楕円形を呈するもの（P3、4、8、17、19、20、21、25、27）、方形もしくは長方形を呈するもの（P10、12、14）がある。

大形のもの規模はP6が長径102cm、深さ17cm、P7が長径118cm、深さ18cm、P16が長径99cm、深さ36cmを測る。覆土は暗褐色シルトを主体とする。As-B混土層であるII層がブロックもしくは粒状に混在する。遺物はP6から混入したと考えられる縄文土器3点と近世の焙烙1点が出土した他、P7から器種不明土師器1点および磯2点が出土した。焙烙（図11-2）は口縁部破片で、外面口縁部付近に煤が付着する。

平面形が円形もしくは楕円形のもの長径が最大で61cm（P4）、最小で30cm（P21）、深さは最大で34cm（P20）、最小で9cm（P8）を測る。覆土は黒～暗褐色を主体とするものが多く、P25以外はAs-B混土層であるII層がブロックもしくは粒状に混在する。遺物はP20から土師器の破破片1点、時期不明土器7点が出土した。

平面形が方形もしくは長方形のものはP10が長軸24cm、深さ22cm、P12が長軸29cm、深さ27cm、P14が長軸23cm、深さ11cmを測る。覆土は黒～暗褐色シルトを主体とし、P10、14はAs-B混土層であるII層がブロックもしくは粒状に混在する。

各ピットの帰属時期について、焙烙が出土したP6については近世の可能性が高い。その他のピットについては出土遺物から帰属時期を推定することは難しい。P7、P12、P25以外はAD1108年降灰の浅間B軽石（As-B）混土層を含むため、少なくとも降灰以後に埋没していることが想定される。

2. 出土遺物

本調査で出土した縄文時代以外の遺物について概要を述べる。土師器は坏6点、甕1点、高坏1点、器種不明1点が出土したほか、ロクロ土師器1点が出土した。須恵器は甕1点が出土した。大半が攪乱層およびII層からの出土であり、小破片である。これらの内、高坏1点について図示し詳細を述べる。図11-1は土師器高坏の脚上部から坏部と考えられる。脚部と坏部の接合部分に一周するヘラナデが、坏内面にはヘラ調整痕が残る。

近世以降に帰属すると考えられる遺物では、磁器8点、陶器5点、土器5点、金属製品（キセル）4点、釘2点が出土した。大半が攪乱層からの出土であり、P6から出土した焙烙以外は図示はしない。



図 11. その他の時代出土遺物実測図

表 7. その他の時代出土遺物観察表

図No.	出土遺構	分類	器種	部位	胎土色調	含有物	重量 (g)	文様等	備考
図 11-1	II層	土師器	高坏	坏部～脚上部	赤褐色	炭屑：微 小硬：微	29.0	外面：回転ヘラナデ 内面：ヘラ調整	
図 11-2	P6	近世土器	焙烙	口縁部	灰色	炭屑：微 白色粒子：微	40.5	ロクロ製	

表 6. その他の時代ピット一覧

遺構名	検出位置	平面形状	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	備考
P3	B-1	楕円形	52	25	17		
P4	B-1	不整形円形	61	54	17		
P6	B-2	円形	102	96	17	加蓋料E2式1点、時期不明縄文土器2点、近世土器（徳形）1点、土師器（器種不明）1点、磯2点	P30、P7を切る
P7	B-2	円形	118	113	18		P33を切り、P6に切られる
P8	B-2	楕円形	66	37	9		
P10	B-1	方形	24	22	22		
P12	B-1	長方形	29	21	27		
P14	B-1	長方形	23	20	11		
P16	B-1	楕円形	99	68	36		P21を切る
P17	B-1	楕円形	34	18	18		
P19	B-2	不整形円形	45	42	32		
P20	B-1、B-2	楕円形	59	46	34	土師器（坏）1点、時期不明土器7点	
P21	B-1	楕円形?	30	-	17		P16に切られる
P25	B-2	楕円形	53	29	28		P33を切る
P27	B-1	楕円形	50	29	30		

第4章 まとめ

1. 縄文時代

本調査では縄文時代の遺構として、住居跡1軒（1号住居跡）、ピット11基が確認された。

1号住居跡は、試掘調査で埋没が出土したP26を起点として精査し、7基のピットが確認された。擾乱層（1層）により床面まで失っており、炉跡は確認されない。1号住居跡は埋没として埋設されていた土器から、中期後葉の加曾利E2時期に帰属すると推定される。

なお、埋没覆土中には焼土や炭化物は確認されないことから炉跡ではなく、住居跡壁際に埋設されたものと考えられる。本調査地点の近隣では、天王川右岸に位置する棟高西弥三郎街道遺跡7号住居跡で、壁際に加曾利E3式土器の埋設が確認されている。

住居跡以外のピットとして11基を確認した。出土遺物が少ないことから、詳細な時期は不明であるが、覆土の様相から縄文時代に帰属すると判断した。

高崎市内における縄文時代中期後葉の集落跡としては、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、白川傘松遺跡、高崎情報団地Ⅱ遺跡等が知られる。本調査地点近隣では縄文時代中期後葉の住居跡が確認された例は少ないが、先述の棟高西弥三郎街道遺跡で加曾利E3時期の住居跡2軒が確認されている他、北1km程に位置する棟高遺跡群の棟高東新堀1遺跡において、加曾利E4時期の敷石住居跡が確認されている。

2. その他の時代

縄文時代以外の時期に帰属すると考えられる遺構として、ピット15基が確認された。これらのピットには有意な配置等が確認されず、その用途等は不明である。ピットから遺物はほとんど出土しないため詳細な時期は不明であるが、覆土の様相から縄文時代以外に帰属すると判断した。また、大半のピットでAD1108年降灰の浅間Bテフラ（As-B）が混じることから中世以降に帰属する可能性が高い。擾乱層（1層）からは近世に帰属する遺物が数点出土している一方、中世に帰属する遺物は見られないこと、P6から近世の焙烙の破片が出土していることなどから、大半のピットは近世以降に帰属する可能性がある。

本調査地点近隣では、棟高西弥三郎街道遺跡でムロ、井戸、溝等の近世に帰属する遺構が確認されている。

参考文献

- 株式会社測研 2019『棟高西弥三郎街道遺跡』高崎市文化財調査報告書 435
群馬県高崎市教育委員会 2017『棟高遺跡群 3』高崎市文化財調査報告書 384
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987『関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書 第12集（上野国分僧寺・尼寺中間地域）』
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998『白川傘松遺跡4』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 204
山武考古学研究所 1997『高崎情報団地遺跡発掘調査報告』高崎市遺跡調査会文化財調査報告書 55
高崎市教育委員会 2002『高崎情報団地2遺跡第1分冊（縄文時代編）』高崎市文化財調査報告書 177

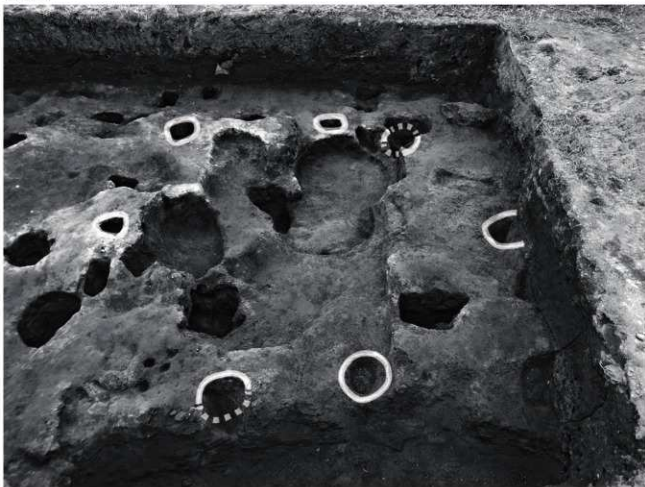
写真図版



調査区完掘状況（南東から）



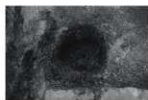
1号トレンチ壁面（西から）



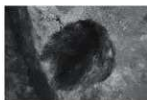
1号住居跡完掘状況（東から）



1号住居跡埋壘（P26）出土状況（西から）



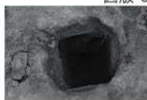
P26 完掘 (北から)



P22 完掘 (北から)



P2 完掘 (南から)



P1 完掘 (北から)



P23 完掘 (東から)

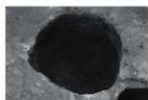


P25、33 完掘 (南から)



P34 完掘 (南から)

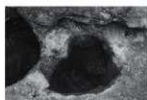
1号住居跡ピット



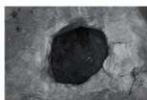
P5 完掘 (北から)



P9 完掘 (北から)



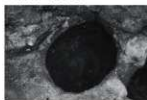
P11 完掘 (西から)



P13 完掘 (北から)



P15 完掘 (北から)



P24 完掘 (西から)



P28 完掘 (北から)



P29 完掘 (北から)



P30 完掘 (北から)



P31 完掘 (北から)



P32 完掘 (北から)

縄文時代ピット



1号住居跡出土遺物



2



3



1

ピット 15 出土縄文土器



2



3



4

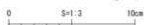


5

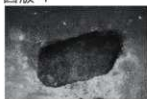


6

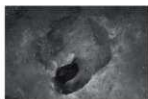
遺構外出土縄文土器



図版 4



P3 完掘 (北から)



P4 完掘 (北から)



P6 完掘 (北から)



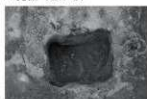
P7 完掘 (北から)



P8 完掘 (西から)



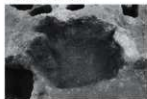
P10 完掘 (南から)



P12 完掘 (北から)



P14 完掘 (北から)



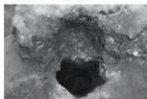
P16 完掘 (北から)



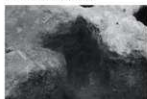
P17 完掘 (北から)



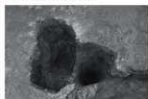
P19 完掘 (北から)



P20 完掘 (西から)



P21 完掘 (北から)



P25、33 完掘 (南から)



P27 完掘 (北から)

その他の時代ピット

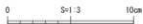


1



2

その他の時代出土遺物



報告書抄録

ふりがな	むなたかきたかいどういせき							
書名	棟高北街道遺跡							
副書名	建売分譲住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査							
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第483集							
編著者名	高崎市教育委員会、赤堀 信人							
編集機関	パリオ・サーヴェイ株式会社							
所在地	〒114-0014 東京都北区田端 1-25-19 サントル田端 1丁目ビル 1F							
発行年月日	令和5年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
むなたかきたかいどういせき 棟高北街道遺跡	ちかさきむなたかまちあぎきたかいどう 高崎市棟高町字北街道 2004-1	102024	852	36° 38' 07"	139° 00' 45"	2022年8月18日 ～ 2022年8月26日	31㎡	建売分譲住宅建設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
棟高北街道遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡 ピット	1軒 11基	縄文土器（加骨利E式、堀之内2式）	住居跡は7基のピットのみ残存し、内1基に埋蔵が確認された。加骨利E2式副に帰属するものと考えられる。 その他ピットについては遺物がほとんど出土していないため詳細な時期は不明であるが、覆土の様相から縄文時代に帰属すると判断した。		
		その他の時代	ピット	15基	土師器、須恵器、近世以降（陶磁器、土器、金属製品）	その他の時代としたピットからも遺物はほとんど出土していないが、覆土から縄文時代ではないと判断した。そのため詳細な時期は不明であるが、多くのピットでは覆土にAa-B段土層（B層）を含むため、Aa-Bの縄文年であるAD1108以降に帰属すると考えられる。なお、遺物の大半は鏡瓦層（I層）中より確認された。		

棟高北街道遺跡

—建売分譲住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

発行日 2023年3月31日

編集 パリノ・サーヴェイ株式会社

発行 高崎市教育委員会

印刷 野崎印刷紙器株式会社

〒211-0004 神奈川県川崎市中原区新丸子東2丁目907

電話 044-433-3343
